

日々の運転でどの位“事故・ヒヤリ”を経験しているか？

2021.5.11

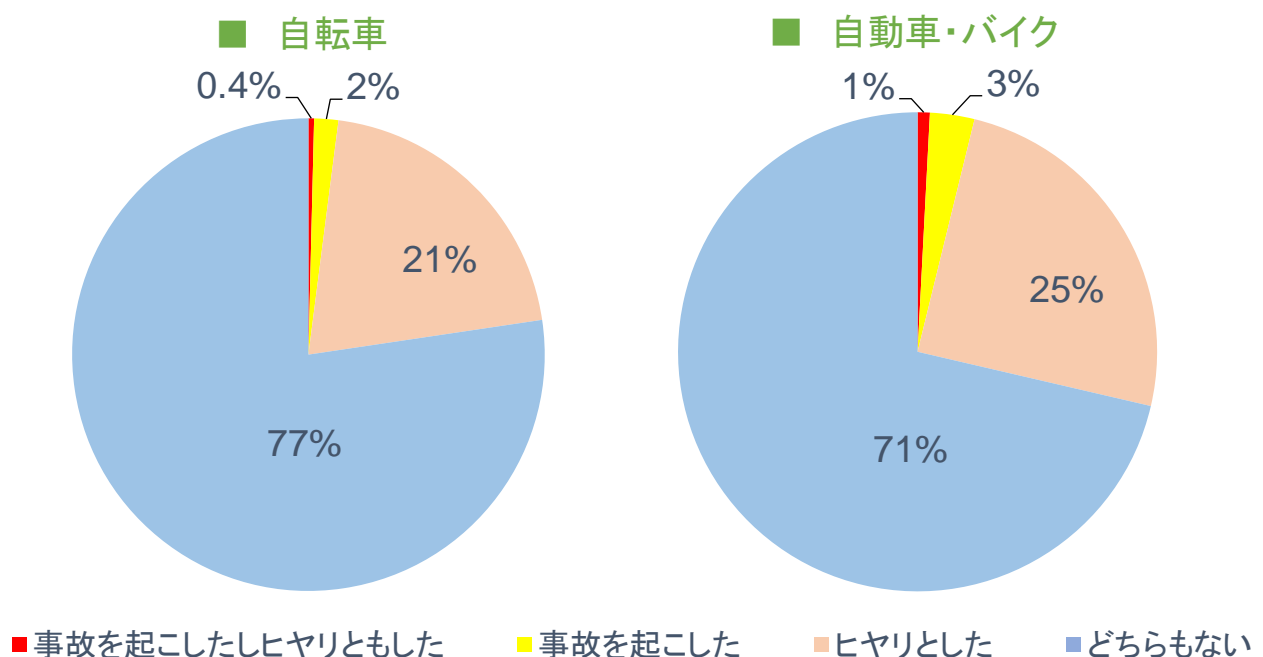
運転中の“事故・ヒヤリ”と「運動器の健康」は関係があるのか？

自転車や自動車・バイクは、快適で健康な社会生活を送るための大切な移動手段となっています。しかし運転中の事故は重大なケガにつながり、後遺症が残ったり、死亡に至ることもあります。コロナ禍で移動手段に対する意識が変化し、公共交通機関から自転車、自動車・バイクの使用が増加しているとの報告もあります。自転車や自動車・バイクを運転中に事故(人や物に衝突した)やヒヤリ(事故を起こしそうになった)とした経験を調査しました。

■ 自転車、自動車・バイクを運転中の“事故・ヒヤリ”の発生率

Q:2020年1月～12月の間に
運転していて事故を起こしたり、ヒヤリとしたことがありますか？

40～74歳では自転車では約23%、自動車・バイクでは約29%が事故やヒヤリを経験しています。



※対象 40～74歳までの男女 14,000人から、介護保険の認定を受けている者や不正な回答であると判断した 334人を除いた 13,666人のうち、2020年1月～12月に間に「普段、徒歩以外の移動手段で自転車を最も使う」と回答した 3,391人、「普段、徒歩以外の移動手段で自動車・バイクを最も使う(自分で運転)」と回答した 6,324人。

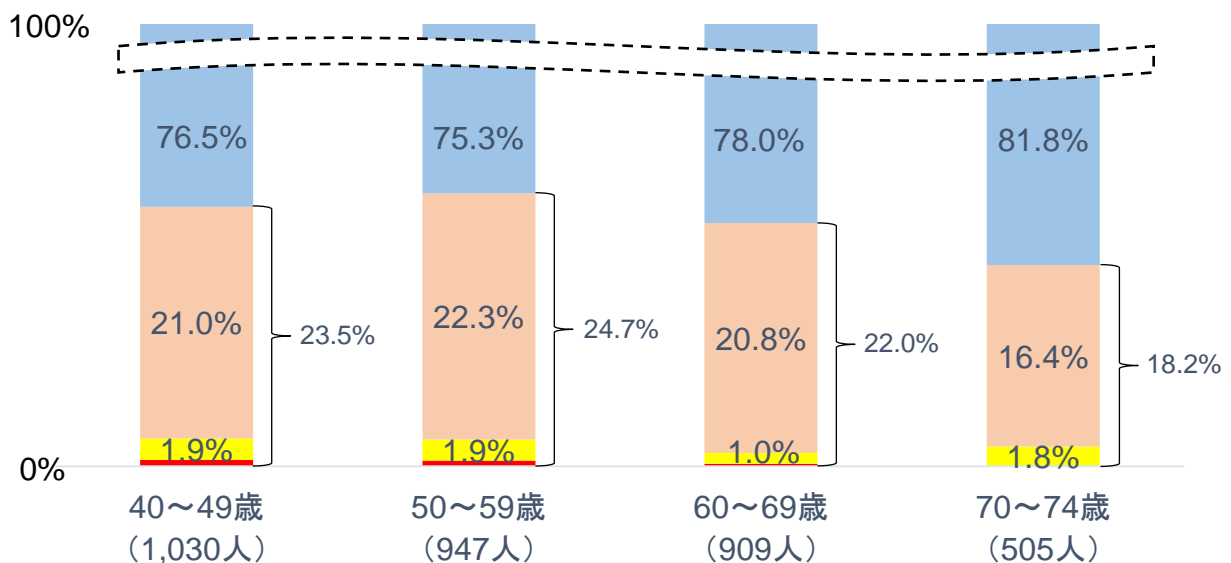
日々の運転でどの位“事故・ヒヤリ”を経験しているか？

■ 自転車、自動車・バイクを運転中の“事故・ヒヤリ”の発生率(年齢階層別)

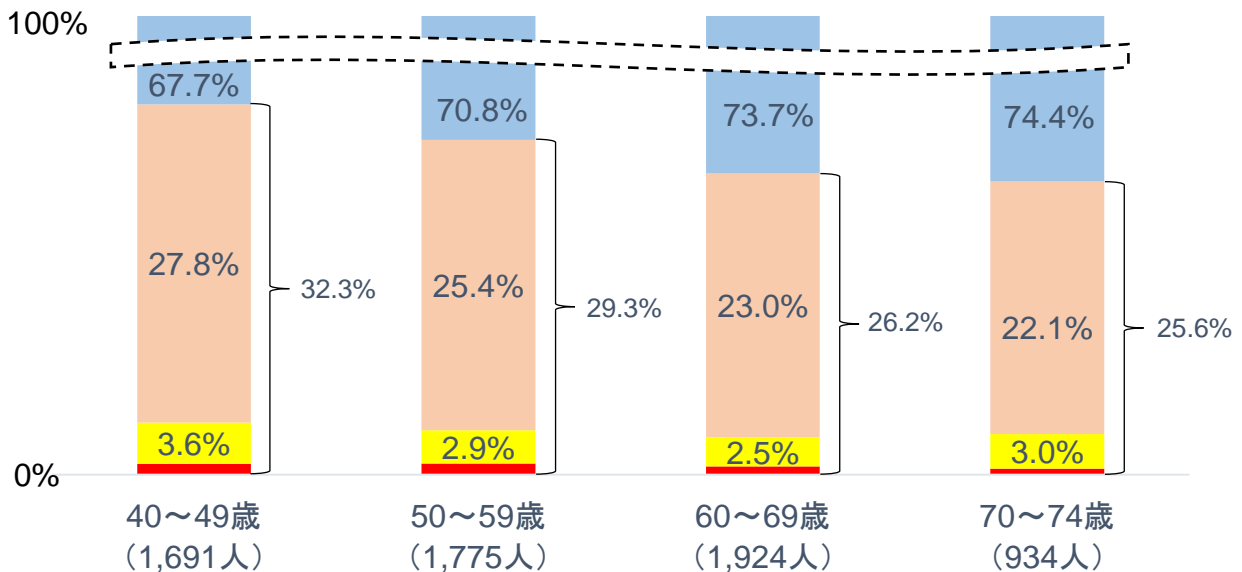
Q:2020年1月～12月の間に
運転していて事故を起こしたり、ヒヤリとしたことがありますか？

自転車では50～59歳、自動車・バイクでは40～49歳で事故やヒヤリの発生率が高く、70～74歳ではどちらも低い傾向でした。

■ 自転車



■ 自動車・バイク



■ 事故を起こしたしヒヤリともした ■ 事故を起こした ■ ヒヤリとした ■ どちらもない

Points

インターネット調査による40～74歳までの年齢層では、年齢が高くなるほど事故とヒヤリの発生率がむしろ減少傾向でした。

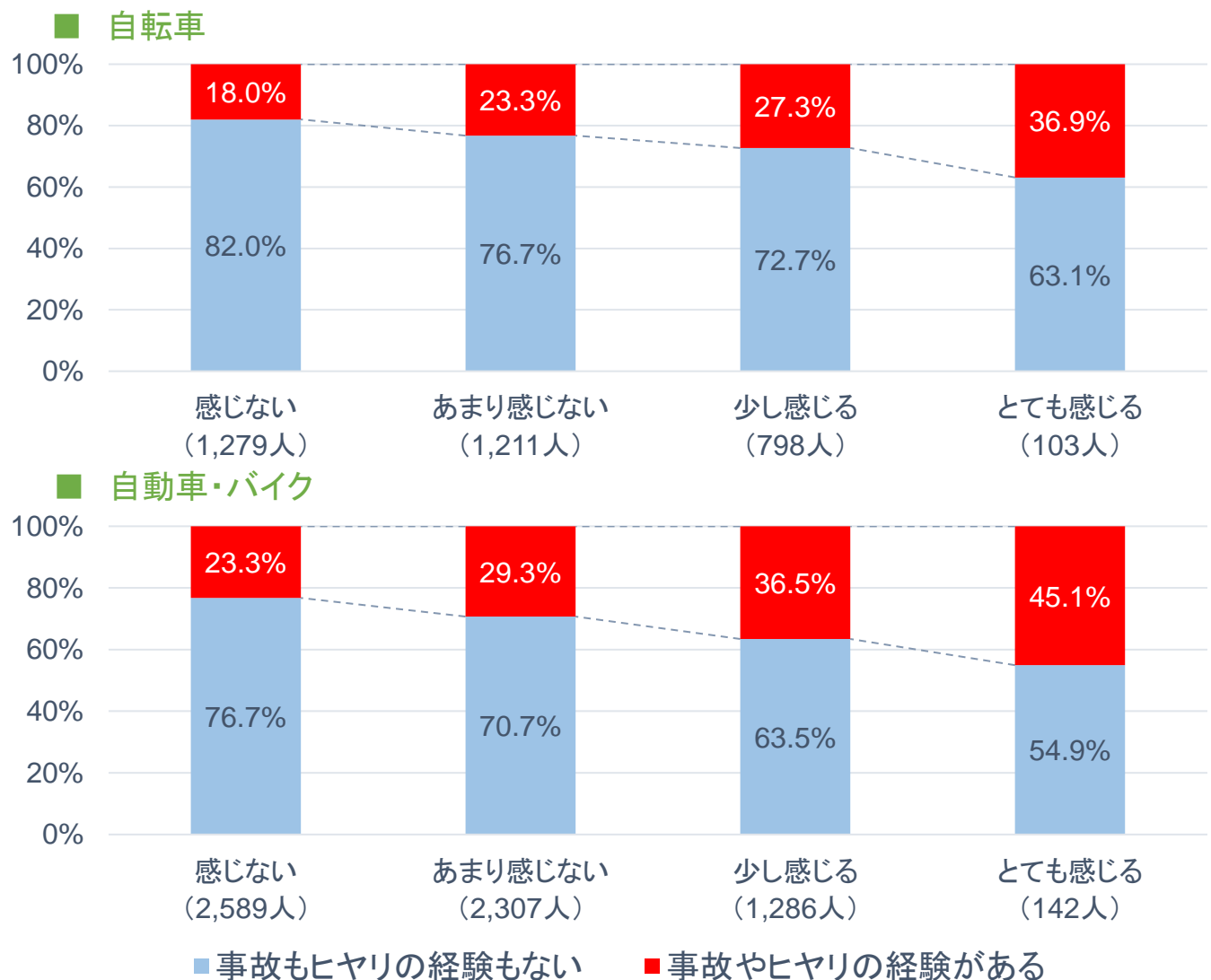
移動手段での事故やヒヤリは、若い段階、つまり中年期から既に起きている問題かもしれません。

日々の運転でどの位 “事故・ヒヤリ”を経験しているか？

■ 「握力」と運転中の“事故・ヒヤリ”の関係

Q: 握力(開封動作)と運転中の“事故・ヒヤリ”の関係
ペットボトルやビンの蓋をかける時、握力が弱いと感じますか？

「弱い」と感じる人は“事故・ヒヤリ”の経験が多い傾向でした。



Points

ペットボトルの開封可能者と開封困難者では握力に有意差があると報告されています。そのため、調査ではペットボトルとビンの蓋を開ける時の握力についての主観を尋ね、運転中の事故やヒヤリとした経験の有無と比較しました。

自転車、自動車・バイクともに、握力を弱いと“とても感じる”人は“感じない”人より事故やヒヤリの発生率が約2倍の傾向でした。年齢よりも強い関係がありそうです。

普段の生活で握力を測定することは難しいですが、蓋を開けるという日常動作から事故やヒヤリのリスクを予想し、予防することができるかもしれません。